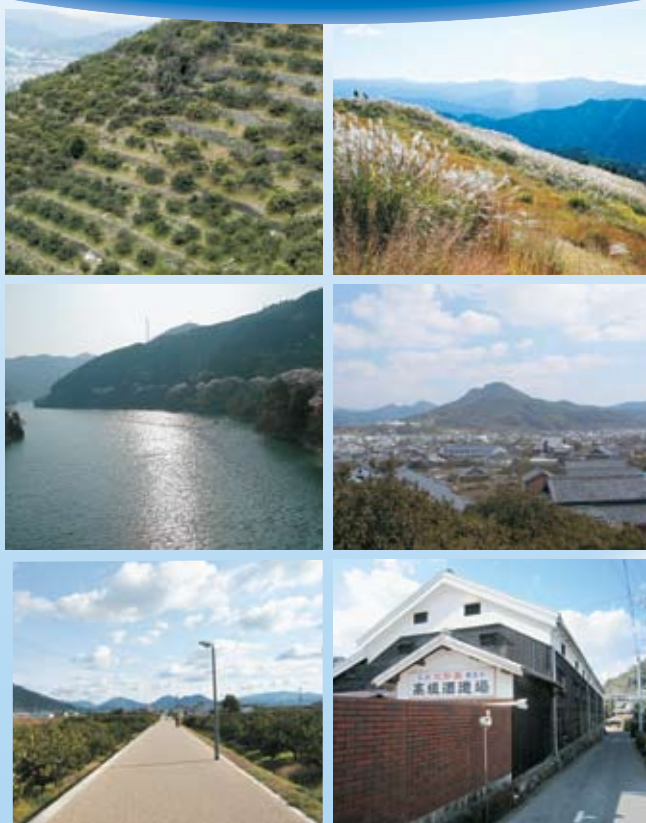




有田川町景観計画の解説

景観計画区域全域 編



有田川町



【目 次】

1. はじめに	1
2. 景観ルール適用範囲	2
3. 景観法に基づく届出	3
4. 景観形成基準の解説	7
5. 届出の様式	24
6. 参考資料	33

1. はじめに

解説の目的

有田川町では、有田川町らしい景観を守り、創り、次代に継承するため、平成 24 年 9 月に「有田川町景観条例」を制定し、平成 25 年 1 月には景観法^{*1}に基づく「有田川町景観計画」（以下「景観計画」といいます。）を策定しました。

良好な景観を形成するため、一定の建築や開発等を行う場合には、周辺の景観に配慮していただく必要があります。景観計画では、このような行為を行う場合に配慮すべき事項を景観ルールとして定めています。

この冊子は、景観計画において定めている景観ルールの内容を理解していただくために、その趣旨や考え方を解説したものです。

^{*1}：平成 16 年に制定された、わが国で初めての景観に関する総合的な法律です。

都市、農山漁村等における良好な景観の形成を図るため、良好な景観形成の理念及び住民、事業者、行政の責務を明確化しています。また、景観計画の策定など、景観形成のための行為規制を行う仕組みや支援の仕組みを備えています。

なぜ景観なのか ―景観まちづくりの意義―

景観は、地域で永く営まれてきた人々の生活や活動の積み重ねが目に見える形となって表れたものです。そのような独自性を持った、地域の歴史や文化を生かした景観を維持・継承・改善するための取組を通じて、次のような効果が期待されます。

- 地域や暮らしの良さに気づき、愛着や誇りを持てるようになる
- 身近な空間の見え方や印象が向上し、身の回りの心地よさが得られる
- 歴史・伝統の保全や新しい魅力をつくり、地域の個性を育む
- 地域の活性化、コミュニティの育成など地域の課題改善に取り組むきっかけとなる

2. 景観ルールの適用範囲

景観計画区域

景観ルールの適用範囲（景観計画区域）は町内全域になります。

また、景観計画区域において、重点的に景観形成を図る区域を景観重要地域として指定し、それぞれの区域の特性に応じて景観ルールを定めています。

※：この冊子では、景観重要地域を除く景観計画区域内の景観ルールを解説しています。
景観重要地域における景観ルールの解説は別冊で作成しています。



3. 景観法に基づく届出

一定規模以上の建築や開発等を行う場合は届出が必要です

景観計画では、景観の悪化を予防し、より良い景観づくりを進めるため、一定規模以上の建築や開発等を行う際のルールを景観形成基準として設定しています。

一定規模以上の建築や開発等を行う場合は、この基準に従って良好な景観が形成されるように、**景観法に基づいて町への届出が必要**になります。

■ 届出の必要な行為

景観重要地域を除く景観計画区域内において、次の表に掲げる行為をする場合は、景観法第16条第1項の規定に基づき、あらかじめ届出の手続が必要となります。

行為の種別		対象となる規模
建築物	・新築（新設） ・増築 ・改築 ・移転	高さ13m超、又は建築面積1,000㎡超
工作物	・外観を変更することとなる修繕、模様替え又は色彩の変更	別表のとおり
都市計画法第4条第12項に規定する開発行為		都市計画区域内 3,000㎡超 都市計画区域外 10,000㎡超
土地の開墾、土石の採取、鉱物の掘採その他の土地の形質の変更		
屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積		3,000㎡超

（別表）工作物の区分

工作物の区分	届出が必要となる規模
アスファルトプラント、コンクリートプラント、クラッシャープラントその他これらに類するもの	高さ13m超、又は築造面積1,000㎡超
自動車車庫の用途に供する施設その他これらに類するもの	
汚物処理場、ごみ焼却施設その他の処理施設の用途に供するもの	
広告塔、広告板、装飾塔、記念塔その他これらに類するもの	高さ13m超
その他の工作物	

■ 届出が不要となる行為

上記の規定にかかわらず、次の行為は、景観法に基づく届出は不要です。(ただし、他法令の手続等が必要な場合があります。)

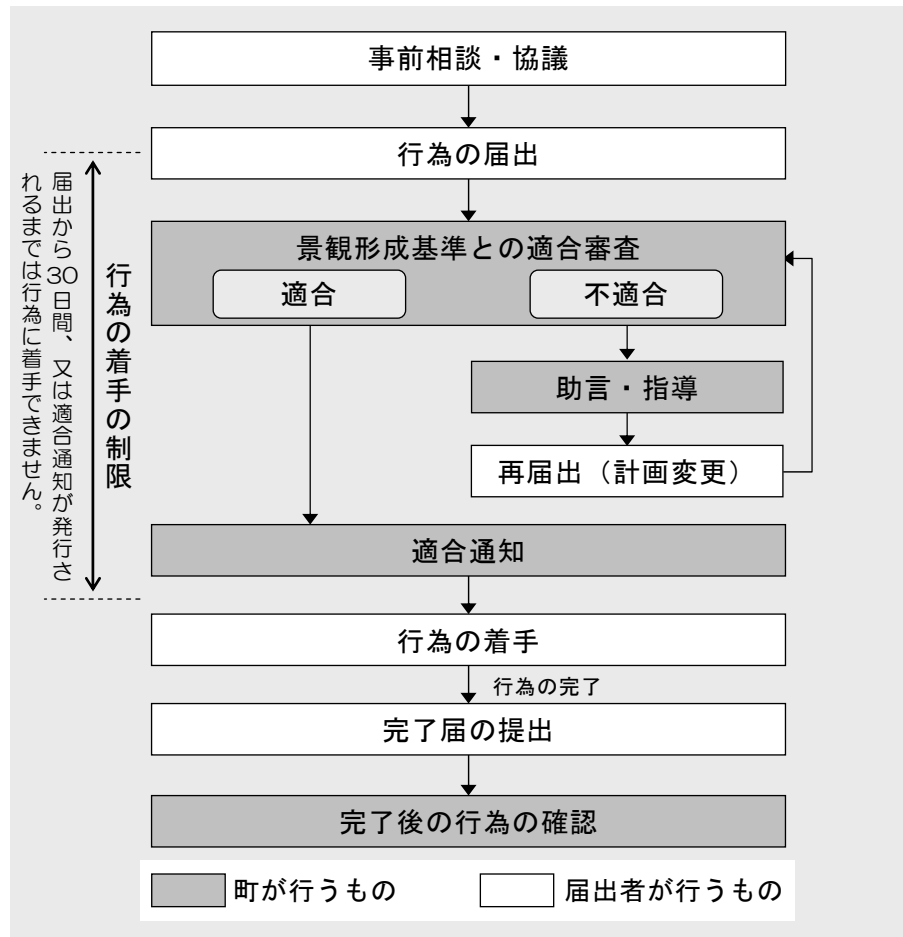
1. 通常の管理行為、軽易な行為その他の行為（地下に設ける建築物の建築等又は工作物の建設等、仮設の工作物の建設等 など）
2. 非常災害のため必要な応急措置として行う行為
3. 景観重要建造物の増改築等で、町長の許可を受けて行う行為
4. 幅員が3 m以下の農道、林道の設置
5. 林業を営むために行う土地の形質の変更
6. 建築物又は工作物の外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更で、当該行為に係る面積の合計が400 m²かつ外観に係る面積の過半を超えないもの
7. 架空電線路用の鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、木柱その他これらに類するものの新設等で、高さが15mを超えないもの
8. 屋外における土石、廃棄物、再生資源の堆積で、堆積期間が90日を超えないもの
9. 和歌山県屋外広告物条例の規定に適合する屋外広告物の表示又は屋外広告物を掲出する物件の設置
10. 自然公園法の認可若しくは許可等に係る行為
11. 和歌山県立自然公園条例の許可に係る行為
12. 都市公園法の許可に係る行為
13. 文化財保護法の許可若しくは届出に係る行為
14. 和歌山県文化財保護条例の許可に係る行為
15. 有田川町文化財保護条例の許可に係る行為の許可に係る行為

■ 届出の流れ

届出の必要な行為をする場合は、工事の着手前に所定の様式を町に提出してください。その後、景観形成基準が守られているかの審査を行い、結果を届出者に通知します。

届出から 30 日間、又は適合通知が発行されるまでは、行為に着手できません。

届出前の事前相談を随時受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。



- この届出とは別に、建築基準法に基づく確認申請、都市計画法に基づく開発許可申請、農地法に基づく許可申請など、他の法令に基づく手続が必要となります。

■ 違反に対する罰則等

届出の内容が明らかに景観形成基準に適合しない場合は勧告を行います。

建築物の建築等や工作物の建設等が景観形成基準（形態意匠の制限のみ）に適合しない場合は、変更命令の対象となります。

届出をしなかった場合や虚偽の届出をした場合等は、罰せられることがあります。

項 目	処分・罰則
基準に適合しない場合	勧告、変更命令
勧告に従わない場合	その旨を公表
変更命令に従わない場合	罰金、原状回復等
無届・虚偽の届出、行為の着手制限違反	罰金

■ 届出に必要な図書

行為の種類、場所、設計又は施行方法、着手予定日等を記載した届出書（25 ページ）に次の図書を添えて、原則として正本 1 部、副本 2 部、あわせて 3 部を提出してください。

図書の種類	明示すべき事項	建築物の建築等	工作物の建設等	開発行為その他の土地の形質の変更	土石の採取・鉱物の掘採	屋外における物件の堆積
付近見取図	・ 当該行為を行う区域の位置及び当該区域周辺の状況 （縮尺 1/2,500 以上）	○	○	○	○	○
現況写真	・ 当該行為を行う区域及び当該区域周辺の状況 （近景及び中遠景の写真）	○	○	○	○	○
配置図	・ 敷地境界及び当該敷地内における建築物又は工作物の位置並びに緑化措置 （縮尺 1/100 程度）	○	○			
立面図	・ 建築物又は工作物の彩色が施された二面以上の立面 （縮尺 1/50 程度）	○	○			
平面図	・ 当該行為を行う区域の境界 ・ 法面の位置、高さ及び勾配 ・ 擁壁又は道路等の位置及び形状 ・ 切土又は盛土をする土地の部分 ・ 遮へい措置（開発行為その他の土地の形質の変更は除く） （縮尺 1/100 程度）			○	○	○
断面図	・ 切土又は盛土をする前後の地盤面（高低差が 1.5m 未満の場合は、省略できる） （縮尺 1/100 程度）			○	○	○
チェックシート	・ 景観形成基準に基づき配慮した事項 （景観形成基準チェックシートを活用）	○	○	○	○	○

※行為の規模により上記の縮尺によりがたい場合は、規模に応じた適切な縮尺の図面としてください。

■ 届出内容を変更する場合

行為の届出後、設計又は施行方法等を当初の届出内容から変更する場合は、変更届出書（25 ページ）の提出が必要となります。変更届出書には、変更に係る上記の図書を添付してください。

変更部分については、変更の届出から 30 日間、又は適合通知が発行されるまでは、行為に着手できません。

4. 景観形成基準の解説

共通事項

- ・ 行為地及びその周辺地域の自然、生活、歴史等の地域特性を読み取り、周辺の景観と調和した魅力ある景観形成に配慮すること。

基準の解説

景観は地域の自然、生活、歴史等の様々な地域特性との密接な関わりの中で形成されるものです。そのため、まずは行為を行う場所や周辺地域の特性を読み取り、守るべき資源や積極的に活用すべき資源等を把握することを求めるものです。

こうした地域特性との関わりを考えることにより、周辺の景観と調和した魅力ある景観を形成していくことが可能となります。

- ・ 周辺に自然や歴史・文化的建築物等の良好な景観を構成するものがある場合には、それらとの調和に配慮すること。

基準の解説

行為地の周辺に、地域を特徴付ける、あるいは地域の歴史や生活を伝えるものとして人々に大切にされている自然や歴史・文化的建築物等があり、それらによって良好な景観が構成されている場合には、その景観を妨げることのないよう形態や規模等について配慮を求めるものです。

- ・ 山地、河川、湖沼、丘陵地等への主要な眺望点からの眺望を妨げない位置又は規模とすること。
- ・ 山稜の近傍では稜線や背景との調和を乱さない位置又は規模とすること。

基準の解説

良好な眺望景観が得られる視点場において、それを妨げることがないよう形態や規模について配慮を求めるものです。特に、山地が町域の大部分を占める有田川町では、稜線等が地域の特徴的な景観を構成する重要な要素の1つとなるため、山稜の近傍で行う行為については、稜線や背景との調和を乱さないようにしてください。

■ 主要な眺望点とは

主要な眺望点とは、山頂の展望台といった高い場所のほか公園、道路、橋梁等の多くの人が訪れる公共の場所が想定されます。

特に、あらぎ島を眺める三田区の展望台など、景勝地として観光パンフレット等に紹介されている場所、あるいは地域の人々が大切にしている場所からの眺望を妨げないようにしてください。

建築物又は工作物の新築（新設）、増築、改築、移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替え又は色彩の変更

■ 景観形成基準

項目	基準
形態・意匠	・市街地や集落では、隣地や周辺の建築物等との連続性に配慮した形態及び意匠とすること。 ・壁面設備、屋上設備は主要な道路から見えにくい位置に設けること。これにより難しい場合は、建築物本体との調和に配慮すること。
色彩	・落ち着いた色彩を基調とすること。 ・アクセント色を使用する場合は色彩相互の調和や使用する量のバランスに配慮すること。
素材	・できる限り周辺の景観と調和した素材を用い、木、土、石など地域の風土に合った自然素材の使用に努めること。 ・できる限り耐久性に優れ、時間とともに景観に溶け込む素材の使用に努めること。
緑化	・行為地内の緑化に努めること。植栽にあたっては、周辺の植生に合った樹種を用いること。 ・行為地内に樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、その保存又は移植に努めること。
その他	・夜間の屋外照明による過剰な光が周囲に散乱しないよう照明方法等に配慮すること。

(1) 形態・意匠

- ・ 市街地や集落では、隣地や周辺の建築物等との連続性に配慮した形態及び意匠とすること。

基準の解説

市街地や集落においては、隣地や周辺の建築物等と比べて極度に違和感のある外観を避けて、周辺のまちなみとの調和を求めるものです。

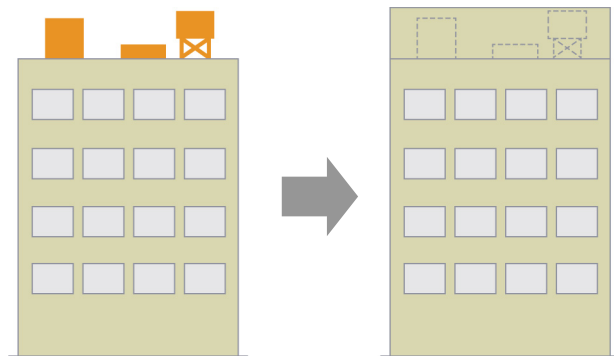
個性と調和は相反するものではなく、双方のバランスの中で良い景観が保たれます。例えば、突出した外観の建築物が並ぶ景観は違和感を覚えますが、逆に全く同じものだけが建ち並んだ景観も単調で魅力がありません。敷地周辺の条件を読み取りながら全体との調和を図りつつ、その中で個性を生み出すような景観の形成を心がけてください。

- ・ 壁面設備、屋上設備は主要な道路から見えにくい位置に設けること。これにより難しい場合は、建築物本体との調和に配慮すること。

基準の解説

建築物に付随する壁面設備、屋上設備は、その外観が建築物本体と異なることが多く、露出した設備類は、建築物の美観や周辺の景観を損ねることがあります。そのため、壁面設備や屋上設備は道路面に露出させないように、その設置位置について配慮を求めるものです。やむを得ず設備類が露出する場合は、建築物本体と一体感を持たせた覆い処置等を講じてください。

●屋上設備の修景イメージ



屋上設備はパラペットやルーバー等で遮へい

(2) 色彩

- ・ 落ち着いた色彩を基調とすること。
- ・ アクセント色を使用する場合は色彩相互の調和や使用する量のバランスに配慮すること。

基準の解説

彩度（鮮やかさ）が高い色や明度（明るさ）が極端に高い色等は、緑の山々等を背景とした景観に違和感を与え、浮き出す恐れがあります。そのため、屋根及び外壁に使用する色彩については、彩度を抑えるなど、自然の色彩になじむよう配慮を求めるものです。

特に、商業施設においては、集客を意識して目立つ色彩を使用する傾向にありますが、過度な色彩の使用は周辺の景観に悪影響を及ぼす可能性があり、ひいてはその企業の価値にも影響を及ぼすことにもなります

着色を施していない木、土、石、日本瓦等の自然素材又は伝統的な手法で作られた素材については、色彩基準は適用されません。

■ 落ち着いた色彩とは

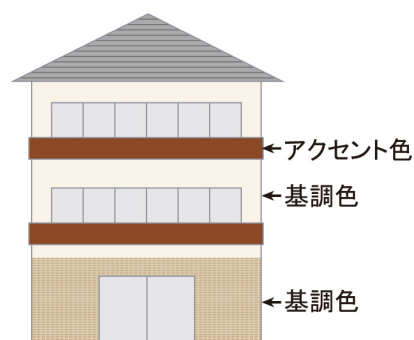
彩度を抑えた色が該当します。また、むらさきやピンクのような色相（色あい）自体がけばけばしい印象を与える色の使用は避けてください。

特に、屋根の基調となる色彩については、低彩度かつ低明度の色彩の使用に努めてください。また、外壁の基調となる色彩については、自然素材に多い赤（R）、黄赤（YR）、黄（Y）、無彩色（N）系の色相で、低彩度かつ中明度の色彩の使用を推奨しています。

■ 基調色とアクセント色

屋根及び外壁の最も大きな面積を占める色を基調色といいます。また、意匠的に用いる小面積の色をアクセント色といいます。

アクセントとして使用する色彩の基準は定めませんが、アクセント色として認める範囲は、開口部を除く見付面積の20%以内とします。



● 基調色とアクセント色

区分	内容
基調色	・ 大きな面積を占める色です。 ・ 基調色の色彩が周辺景観に大きく影響します。
アクセント色	・ 意匠的に用いる小面積の色です。 ・ 単色表現にはない変化をつくることができます。

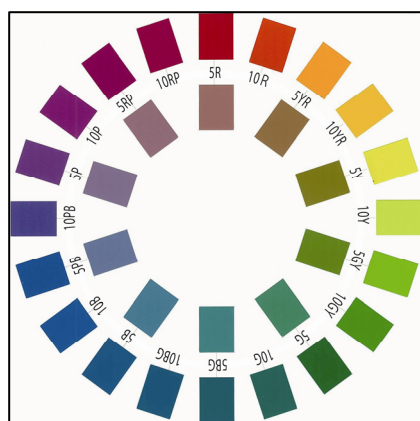
参考:色彩とは

色彩は、色相（色あい）、明度（明るさ）、彩度（鮮やかさ）の三要素からなっており、そのいずれかが変化することで色彩が微妙に変わります。

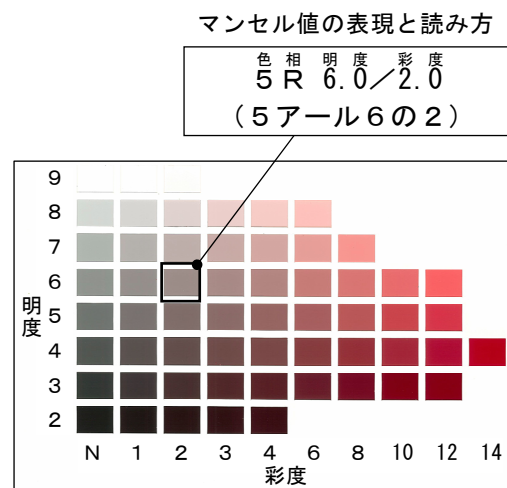
色彩を表すための記号として、一般的にマンセル値が用いられます。マンセル値は色相、明度、彩度の順に表記されます。

●色相・明度・彩度

色相	- 赤や青といった色あいを表します。 - 赤（R）、黄（Y）、緑（G）、青（B）、紫（P）の5色と、それぞれの間の黄赤（YR）、黄緑（GY）、青緑（BG）、青紫（PB）、赤紫（RP）を加えた10色が基本になります。 白、黒、灰といった無彩色はNと表現します。
明度	- 色の明るさを表します。 - 明るい色ほど数値が大きくなります。 - 完全な白を10、完全な黒を0として、その間を等間隔に区分しています。
彩度	- 色の鮮やかさを表します。 - 鮮やかな色ほど数値が大きくなります。ただし、彩度の最大値は色相、明度によって異なります。 白、黒、灰といった無彩色は、彩度0となります。



●マンセル色相環

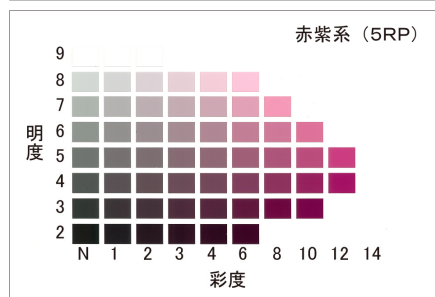
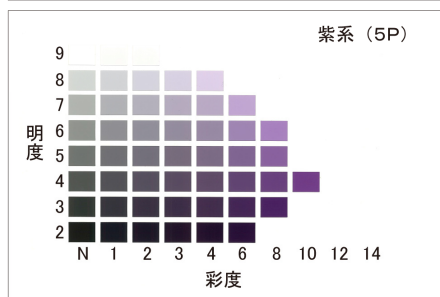
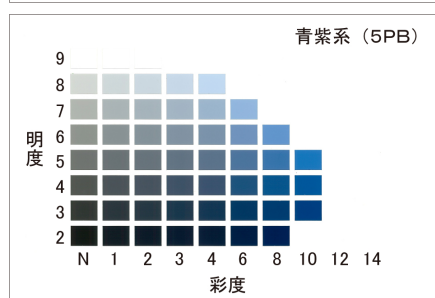
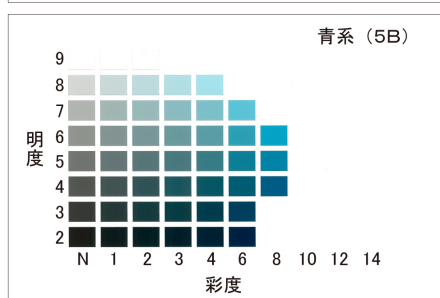
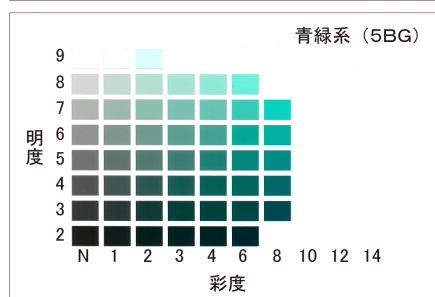
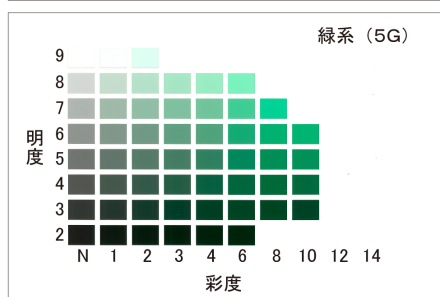
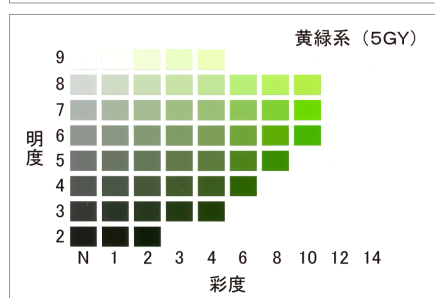
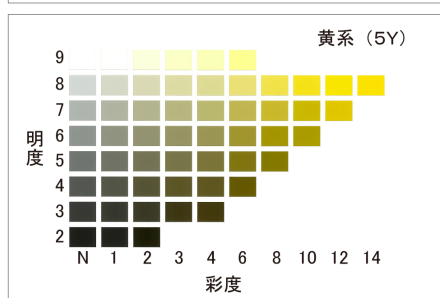
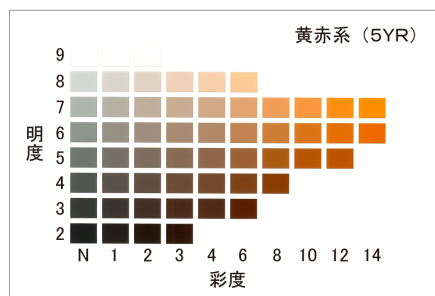
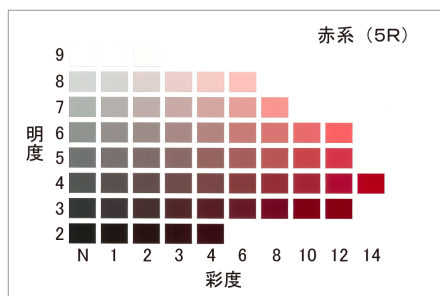


●マンセル値の表現と読み方 (色相 5 R)

これは代表的な色相における明度、彩度の関係を示したものです。

一言で“落ち着いた色彩”と言っても、使用できる色彩はたくさんありますので、色選びは、周辺景観との関係で判断してください。

●彩度と明度の関係



※：この色見本は近似色であり、実際と異なる場合があります。

(3) 素材

- ・ できる限り周辺の景観と調和した素材を用い、木、土、石など地域の風土に合った自然素材の使用に努めること。
- ・ できる限り耐久性に優れ、時間とともに景観に溶け込む素材の使用に努めること。

基準の解説

色彩と同様に素材も景観を構成する上での重要な要素であるため、人工物として、緑の山々等を背景とする景観から過度に突出しないように配慮を求めるものです。特に、光の反射が強い素材を使用する場合は、光沢を抑えることや大きな面積で使用しないなど周辺景観との調和に努めてください。

また、地域らしさを表現し、景観の価値を高める観点から、地域で昔から使われてきた木、土、石、日本瓦等の自然素材又は伝統的な手法で作られた素材の効果的な採用を推奨しています。

●自然素材を効果的に使用した事例



●地場産の素材を使用した事例



(4) 緑化

- ・ 行為地内の緑化に努めること。植栽にあたっては、周辺の植生に合った樹種を用いること。

基準の解説

建築物の圧迫感をやわらげるとともに、建築物等と緑が一体となって、周辺の山並みや農地等と調和した景観を形成するよう配慮を求めるものです。

緑化は最も効果的な修景手法の1つです。
敷地境界部や建築物等の近傍においては、緩衝効果や遮へい効果、あるいはランドマーク性を見込んだ緑化修景に努めてください。

●敷地境界部を緑化した事例



■ 樹種の選定について

樹種の選定に当たっては、地域の自然条件に適した植物が一般に長年にわたって安定的に成育するため、地域の自然植生を目安とした樹種を採用してください。

郷土樹種一覧（33 ページから 43 ページ）を樹種選定の参考としてください。

- ・ 行為地内に樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、その保存又は移植に努めること。

基準の解説

長い年月をかけて生育した樹木は、その地域の景観向上に重要な役割を果たしています。そのため、行為地内に優れた樹木がある場合は、これらをできる限り修景に生かすよう建築物等の配置について配慮を求めるものです。

やむを得ず優れた樹木を伐採する必要がある場合は、その移植の適否についても検討してください。

●既存の樹木を活かした事例



(5) その他

- ・ 夜間の屋外照明による過剰な光が周囲に散乱しないよう照明方法等に配慮すること。

基準の解説

夜間の屋外照明は安全・防犯上必要なものですが、その過剰な使用は、周辺の景観等に悪影響を及ぼす可能性があります。そのため、夜間の屋外照明を設置する場合は、照明の配置や向き、光量、光の色等を工夫し、極端に突出した照明とならないよう配慮を求めるものです。

開発行為、土地の開墾その他の土地の形質の変更

■ 景観形成基準

項目	基準
土地の造成	・ 現況の地形を活かし、長大な法面や擁壁が生じないようにすること。 ・ 法面はできる限りゆるやかな勾配とすること。 ・ 擁壁は周辺景観と調和した形態又は素材とすること。
緑化	・ 法面は周辺の植生と調和した緑化を行うこと。 ・ 行為地内に樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、その保存又は移植に努めること。

(1) 土地の造成

- ・ 現況の地形を活かし、長大な法面や擁壁が生じないようにすること。
- ・ 法面はできる限りゆるやかな勾配とすること。
- ・ 擁壁は周辺景観と調和した形態又は素材とすること。

基準の解説

遠方から見た場合に大きく景観が変わってしまうような地形の改変や長大な法面・擁壁の設置に対して、周辺の景観との調和を大きく乱すことがないように配慮を求めるものです。

土地の造成を伴う開発を行う場合は、現況地形の傾斜の方向や平均勾配を尊重するなど、できるだけ現況の地形を活かして最小限の造成にとどめるとともに、法面・擁壁の圧迫感を軽減するよう工夫してください。

■ 長大な法面や擁壁とは

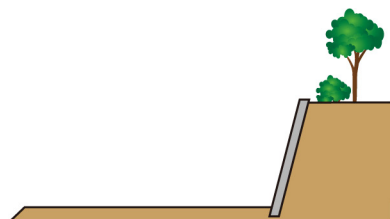
切土又は盛土によって生じる法の高さが5 mを超えるものを指します。

これを超える高低差がやむを得ず生じる場合は、分割により高さを抑えるなど圧迫感を軽減してください。

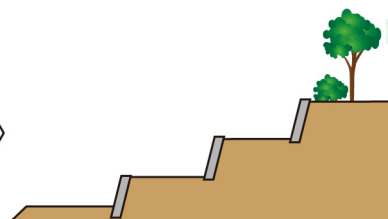
■ 法面の勾配について

水平面と法面のなす角度が大きくなるほど視覚的に垂直面に近く、圧迫感が大きくなるため、法面の勾配は、できる限りゆるやかなものとしてください。

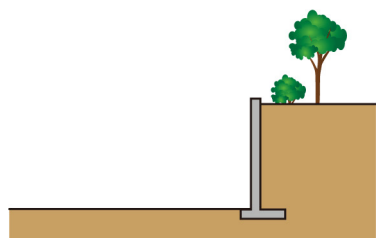
● 圧迫感の軽減イメージ



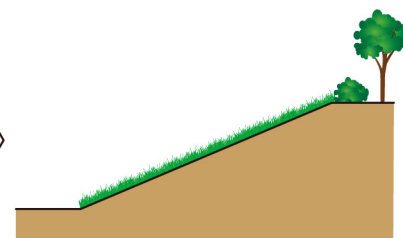
長大な擁壁により、現況地形が大きく変化している。



擁壁の規模を小さくし、現況地形を活かした造成計画とする。



直立した擁壁により、圧迫感が感じられる。



緩やかな法面により圧迫感を軽減し、植栽を施すことで景観に配慮する。

■ 擁壁の形態又は素材について

擁壁を用いる場合は、分割による圧迫感を軽減するとともに、自然石又はそれに準ずる化粧張りとするなど擁壁の素材を工夫してください。

コンクリートを露出させた無機質な垂直擁壁は必要最小限としてください。

● 自然石を用いた擁壁の事例



(2) 緑化

- ・ 法面は周辺の植生と調和した緑化を行うこと。

基準の解説

造成に伴い法面や擁壁が必要となりますが、裸地又はコンクリート等がむき出しのままでは、緑豊かな環境の中にあって見苦しい印象を与えます。森林や農地と新たな開発との景観的な調和を図るため、単調な法面・擁壁が大規模に露出することがないように配慮を求めるものです。

■ 法面の緑化修景について

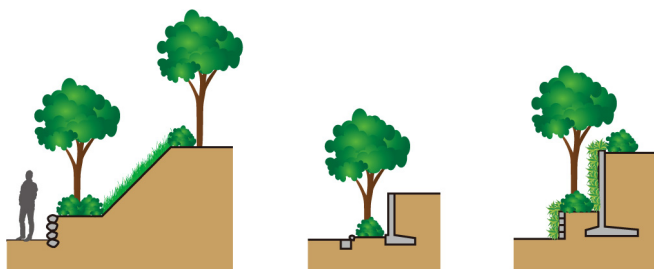
法面・擁壁には樹木や地被植物、つる植物等を用いた緑化修景を行ってください。

また、法面の緑化が難しい場合は、法尻や擁壁際に植栽を行うなど緑化修景を工夫してください。

● 法面の緑化の事例



● 法面の緑化が難しい場合の工夫のイメージ



法面の緑化が難しい場合は、法尻や擁壁際に植栽を行う。

■ 樹種の選定について

樹種の選定に当たっては、地域の自然条件に適した植物が一般に長年にわたって安定的に成育するため、地域の自然植生を目安とした樹種を採用してください。

郷土樹種一覧（33 ページから 43 ページ）を樹種選定の参考としてください。

- ・ 行為地内に樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、その保存又は移植に努めること。

基準の解説

長い年月をかけて生育した樹木は、その地域の景観向上に重要な役割を果たしています。そのため、行為地内に優れた樹木がある場合は、これらをできる限り修景に生かすよう建築物等の配置について配慮を求めるものです。

やむを得ず優れた樹木を伐採する必要がある場合は、その移植の適否についても検討してください。

● 既存の樹木を活かした事例



土石の採取又は鉱物の掘採

■ 景観形成基準

項目	基準
遮へい措置	・ 道路、公園等の公共の場所から容易に望見できる場合は、植栽等で遮へいすること。
緑化	・ 採取又は掘採を終了した場所から速やかに周辺の植生と調和した緑化を行うこと。

(1) 遮へい措置

- ・ 道路、公園等の公共の場所から容易に望見できる場合は、植栽等で遮へいすること。

基準の解説

土石の採取等は通常、行為地の規模が大きく、山の斜面など人の目につきやすい場所で行われることが多いため、周囲の景観に大きな影響を与えます。

そのため、土石の採取等においては、主要な眺望点や道路等から見えにくい位置とするなど、行為地の位置の選定について配慮を求めるものです。やむを得ず行為地が外部から容易に望見できる場合は、敷地周囲の緑化等を工夫してください。

●植栽による遮へいの事例



(2) 緑化

- ・ 採取又は掘採を終了した場所から速やかに周辺の植生と調和した緑化を行うこと。

基準の解説

土石の採取場等が裸地のままでは、景観上の影響が大きく、荒廃した印象を与えます。そのため、土石の採取等の終了後においては、周辺の景観への影響が少なくなるよう自然復元について配慮を求めるものです。

●土石採取場の緑化の事例



■ 樹種の選定について

新たな造成森林における樹種の選定に当たっては、地域の自然植生を目安とした樹種を採用してください。

郷土樹種一覧（33 ページから 43 ページ）を樹種選定の参考としてください。

屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積

■ 景観形成基準

項目	基準
堆積の方法	・ 堆積物の高さをできる限り低くするとともに、整然とした堆積に努めること。
遮へい措置	・ 道路、公園等の公共の場所から容易に望見できる場合は、植栽等で遮へいすること。

(1) 堆積の方法

- ・ 堆積物の高さをできる限り低くするとともに、整然とした堆積に努めること。

基準の解説

雑然とした土石、廃棄物、再生資源等の野積みは、豊かな自然環境の中にあって見苦しい印象を与えます。そのため、できる限り野積みによる保管を避けるとともに、やむを得ず野積み保管を行う場合は、周辺景観への違和感の軽減について配慮を求めるものです。

(2) 遮へい措置

- ・ 道路、公園等の公共の場所から容易に望見できる場合は、植栽等で遮へいすること。

「土石の採取又は鉱物の掘採」の基準に準じるものとします。21 ページを参考にしてください。

5. 届出の様式

■ 届出書

ここでは、届出書の様式を用意しています。必要な様式をコピーして使用してください。
また、この様式は、町の公式ウェブサイトからもダウンロードできます。

- 景観計画区域内における行為の届出書
（有田川町景観条例施行規則 別記様式第1号）
- 景観計画区域内における行為の完了届出書
（有田川町景観条例施行規則別記様式第6号）

様式第1号（第4条関係）

景観計画区域内における行為の届出書（□変更）

年 月 日

有田川町長 様

届出者 住 所
氏 名
連絡先

印

景観法第16条第1項・第2項の規定により、次のとおり届け出ます。

代 理 者	住 所			
	氏 名			
	電 話 番 号			
行 為 の 名 称				
行 為 の 場 所	有田郡有田川町		番地	
区 域 区 分	☐ 景観重要地域（		☐ その他	
行 為 の 種 類	☐ 建築物	☐ 新築 ☐ 増築 ☐ 改築 ☐ 移転 ☐ 外観の変更（修繕・模様替・色彩の変更）		
	☐ 工作物	☐ 新設 ☐ 増築 ☐ 改築 ☐ 移転 ☐ 外観の変更（修繕・模様替・色彩の変更）		
	☐ 開発行為			
	☐ 土地の開墾、土石の採取、鉱物の掘採その他の土地の形質の変更			
	☐ 屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積			
①建築物・工作物		届 出 部 分	既 存 部 分	合 計
	敷 地 面 積			m ²
	建築（築造）面積	m ²	m ²	m ²
	延 べ 面 積	m ²	m ²	m ²
	高 さ	m	m	
	構 造	造／一部 造		
	用 途			
	外観の変更内容			
①以外	面 積			
行 為 の 期 間	着手予定日 年 月 日		完了予定日 年 月 日	
※届出番号	第	号	※適合通知年月日	年 月 日
※受付欄				

1 ※印の欄は、記入しないでください。

2 法人その他の団体にあつては、主たる事務所の所在地、その名称及び代表者の氏名を記載してください。

添付書類

1. 建築物の建築等、工作物の建設等

- ① 建築物又は工作物の敷地の位置及び当該敷地周辺の状況を表示する図面
- ② 当該敷地及び当該敷地周辺の状況を示す写真（近景及び中遠景の写真）
- ③ 敷地境界及び当該敷地内における建築物又は工作物の位置並びに緑化措置を表示する図面
- ④ 建築物又は工作物の彩色が施された二面以上の立面
色彩のマンセル値（日本工業規格Z8721で定める色相、明度及び彩度の三属性の値で表す数値）で表示
- ⑤ 町長が必要と認める図書

2. 開発行為、土地の形質の変更、屋外における物件の堆積

- ① 当該行為を行う区域の位置及び当該区域周辺の状況を表示する図面
- ② 当該行為を行う区域及び当該区域周辺の状況を示す写真（近景及び中遠景の写真）
- ③ 設計図又は施行方法を明らかにする図面
- ④ 町長が必要と認める図書

- 1 図面の縮尺は、当該行為の規模に応じて、明示すべき事項を適切に表示できる縮尺としてください。

様式第 6 号（第 1 1 条関係）

景観計画区域内における行為の完了届出書

年 月 日

有田川町長 様

届出者 住 所
氏 名
連絡先
印

景観法第 1 6 条第 1 項・第 2 項の規定により届け出た行為が完了したので、有田川町景観条例第 1 6 条の規定により、次のとおり届け出ます。

代 理 者	住 所	
	氏 名	
	電 話 番 号	
行 為 の 場 所	有田郡有田川町 番地	
行 為 の 種 類	☐ 建築物	☐ 新築 ☐ 増築 ☐ 改築 ☐ 移転 ☐ 外観の変更（修繕・模様替・色彩の変更）
	☐ 工作物	☐ 新設 ☐ 増築 ☐ 改築 ☐ 移転 ☐ 外観の変更（修繕・模様替・色彩の変更）
	☐ 開発行為	
	☐ 土地の開墾、土石の採取、鉱物の掘採その他の土地の形質の変更	
	☐ 屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積	
届 出 年 月 日	年 月 日（変更届出日 年 月 日）	
適 合 通 知 年 月 日	年 月 日	
行 為 の 完 了 年 月 日	年 月 日	
添 付 書 類	・ 行為を完了したことが分かるカラー写真	

1 法人その他の団体にあつては、主たる事務所の所在地、その名称及び代表者の氏名を記載してください。

■ 景観形成基準チェックシート

届出の手続を円滑に進めるため、届出に必要な添付書類として、所定の図書とともに本チェックシートを提出してください。本解説書から必要な様式をコピーして使用してください。また、町の公式ウェブサイトからもダウンロードできます。

チェックシートには、該当する行為の種類ごとに、具体的に配慮した内容等を記入してください。

景観形成基準チェックシート(共通)

届出者		行為の場所	
-----	--	-------	--

行為地の景観特性の把握

※ □にチェック(レ)をしてください。

景観計画の内容の確認	☐ 確認済 ☐ 未確認
行為地の景観特性	(具体的に記入)
主要な眺望点からの眺望の有無	☐ 有 ☐ 無 (主要な眺望点：)

景観形成基準(共通事項)の確認

※ □にチェック(レ)をしてください。

項 目		チェック欄
共通事項	行為地及びその周辺地域の自然、生活、歴史等の地域特性を読み取り、周辺の景観と調和した魅力ある景観形成に配慮していますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない
	周辺に自然や歴史・文化的建築物等の良好な景観を構成するものがある場合には、それらとの調和に配慮していますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない
	山地、河川、湖沼、丘陵地等への主要な眺望点からの眺望を妨げない位置又は規模としていますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない
	山稜の近傍では稜線や背景との調和を乱さない位置又は規模としていますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない
設計コンセプト等	(設計コンセプト、配慮した事項等を記入)	

景観形成基準チェックシート (建築物の建築等又は工作物の建設等)

景観形成基準の確認

※ □にチェック(レ)をしてください。

項 目		チェック欄	配慮した事項 「はい」の場合は内容を記入 「いいえ」「該当しない」の場合は理由を記入
形態、 意匠	市街地や集落では、隣地や周辺の建築物等との連続性に配慮した形態及び意匠としていますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
	壁面設備や屋上設備は、建築物本体との調和に配慮していますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
色彩	落ち着いた色彩を基調としていますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
	アクセント色を使用する場合は色彩相互の調和や使用する量のバランスに配慮していますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
素材	周辺の景観と調和した素材を使用していますか。 木、土、石など地域の風土に合った自然素材を使用していますか。【推奨事項】	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
	耐久性に優れ、時間とともに景観に溶け込む素材を使用していますか。【推奨事項】	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
緑化	行為地内の緑化を行いますか。【推奨事項】 また、植栽にあたっては、周辺の植生に合った樹種を用いていますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
	行為地内に樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、その保存又は移植を行いますか。【推奨事項】	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
照明	夜間の屋外照明による過剰な光が周囲に散乱しないよう照明方法等に配慮していますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
その他	(上記以外で配慮した事項を記入)		

※「その他」の欄への記入は任意です。

景観形成基準チェックシート (開発行為、土地の開墾その他の土地の形質の変更)

景観形成基準の確認

※ □にチェック(レ)をしてください。

項 目		チェック欄	配慮した事項 「はい」の場合は内容を記入 「いいえ」「該当しない」の場合は理由を記入
土地の造成	現況の地形を活かし、長大な法面や擁壁が生じないように配慮していますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
	法面は、ゆるやかな勾配としていますか。【推奨事項】	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
	擁壁は、周辺景観と調和した形態又は素材としていますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
緑化	法面は、周辺の植生と調和した緑化を行いますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
	行為地内に樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、その保存又は移植を行いますか。【推奨事項】	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
その他	(上記以外で配慮した事項を記入)		

※「その他」の欄への記入は任意です。

景観形成基準チェックシート (土石の採取又は鉱物の掘採、屋外における物件の堆積)

景観形成基準の確認

☐ 土石の採取又は鉱物の掘採

※ ☐ にチェック(レ)をしてください。

項 目		チェック欄	配慮した事項 「はい」の場合は内容を記入 「いいえ」「該当しない」の場合は理由を記入
遮 へ い 措 置	道路、公園等の公共の場所から容易に望見できる場合は、植栽等で遮へいしていますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
緑 化	採取又は掘採を終了した場所から速やかに周辺の植生と調和した緑化を行いますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
そ の 他	(上記以外で配慮した事項を記入)		

※「その他」の欄への記入は任意です。

☐ 屋外における物件の堆積

※ ☐ にチェック(レ)をしてください。

項 目		チェック欄	配慮した事項 「はい」の場合は内容を記入 「いいえ」「該当しない」の場合は理由を記入
堆 積 の 方 法	堆積物の高さをできる限り低くするとともに、整然とした堆積を行いますか。【推奨事項】	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
遮 へ い 措 置	道路、公園等の公共の場所から容易に望見できる場合は、植栽等で遮へいしていますか。	☐ はい ☐ いいえ ☐ 該当しない	
そ の 他	(上記以外で配慮した事項を記入)		

※「その他」の欄への記入は任意です。

6. 参考資料

■ 郷土樹種一覧

緑化樹種の選定の際の参考資料として、「和歌山の森林及び樹木を守り育てる条例」（平成 23 年和歌山県条例第 58 号）に基づく、「和歌山県郷土樹種使用指針」（平成 24 年 6 月）に掲載されている有用郷土樹種一覧表を抜粋しています。

参考：有用郷土樹種一覧表の見方

（１）「姿」

種名欄の樹木の外見的要素を記載しています。

ア）「常落」

常：常緑樹

落：落葉樹

イ）「樹高」

それぞれの樹種に適した環境の中で成熟した樹木の高さ。造成地等で土壌改良を行わない環境に植栽した場合は、期待した樹高に育たない場合が多くなります。

高木：10m以上に成長する樹木

亜高木：成長しても5～10m程度の樹木

低木：成長しても5m以下の樹木

※造園用語としての高木・中木・低木とは概念が異なります。

（２）「生育地」

樹木の生育適地を記載しています。

植樹計画地の条件を判断して適する樹種を選んでください。

ア）「気候」

適地の気候を次のとおり区分しています。

「気候」欄に記載した区分地は最適地で、それに隣り合う区分地は適地です。

それより離れた区分地は健全な生育が望めない不適地ですので、植樹は避けてください。

海 ⇄ 暖 ⇄ 温 ⇄ 冷

常：海岸付近（海岸からの距離がおおむね0～200mの地域）

暖：低標高地（海岸からの距離がおおむね200m～標高500mの地域）

温：中標高地（おおむね標高500～800mの地域）

冷：高標高地（おおむね標高800m以上の土地）

例）イロハモミジ：最適地は「温」、適地は隣り合う「暖」「冷」、不適地は「海」

(3)「生育条件」

その樹種が健全に生育するための条件を記載しています。

ア)「利用光」

樹木は、樹種や樹齢によって、それぞれ最適な光強度が違います。そのため、利用しようとする樹種が好む光強度に応じた植樹場所や植樹配置を考えることが重要です。

強：日陰では生育できない樹種

中：森林の状況、斜面傾斜方向、地形等により日照の時間や強度が裸地の半分程度になる環境を好む樹種

弱：林内の暗い条件でも生育できる樹種

強弱：若い時は弱い光でないと育たないが、成長すると強光に耐えられる樹種

イ)「水分要求」

樹木は樹種によって要求する水分量が異なります。植樹地の水分環境に応じて、それぞれ適した樹種を選ぶことが大切です。

大：乾燥に弱い樹種

中：乾燥、過湿を好まない樹種

小：乾燥に強い樹種

※樹木が要求するのは流動水です。停滞水は、酸素欠乏等により成長に悪影響を及ぼします。

ウ)「耐アルカリ性」

日本には酸性土壌が多いため、日本の樹木は酸性土壌に良く適応しますが、中には蛇紋岩地帯などアルカリ性土壌に育つ樹種もあります。

市街地は様々な要因でアルカリ性土壌になりやすいため、樹種を選ぶ際には耐アルカリ性を考慮することも大切です。

大：アルカリ性土壌でも育つ樹種

中：アルカリ性土壌ではやや成長が劣る樹種

小：アルカリ性土壌では成長が悪い樹種

ー：データ無し

(4)「根系分布」

根が土壌のどの部分まで発達するかについて記載しています。

浅根：根は主にA層で発達し、B層では未発達

深根：根はB層でもよく発達

中間：根は上記2つの中間的な伸び方

ー：データ無し

※A層：有機質を多く含む層

B層：有機質が少ない層

(5)「植樹適期」

その樹種を植樹する適期について記載しています。なお、記載している時期は絶対的なものではなく、その月を中心に前後1ヶ月程度の期間は植栽可能です。

基本的に、落葉樹は2～3月及び11月の落葉時期（厳冬期は避ける）、常緑樹は6～7月の新葉成熟期又は秋の成長期である9～10月が植樹の適期です。

(6)「利用」

植樹地の特徴的なものについて記載しています。

ア)「林地」

- ：森林を造成する場合に使用が適切な樹種
- ▲：自生地域が限定されており、遺伝子汚染を避けるため植樹場所や郷土苗木の使用に特に留意する必要がある樹種
- ×：県外からの移入種や森林での生育に適さない樹種

イ)「開発裸地」

- ：水分要求が少ない、強い陽射しに耐える、窒素固定細菌と共生する樹種
- ×：上記以外の樹種

ウ)「街なか緑地」

「公園」

- ：公園等に植樹可能な樹種
- ×：人がかぶれる危険性のある樹種のみ

「街路樹」

- ：都市の乾燥したアルカリ性土壌に耐えて生育し、剪定にもよく耐える樹種
- ×：上記以外の樹種

「庭木」

- ：剪定に耐える、長寿、花や実が美しい、枝が粗でない樹種
- ×：上記以外の樹種

「生垣」

- ：主に亜高木以下で剪定に強い樹種
- ×：上記以外の樹種

(7)「特徴」

ア)「花・実」

花や実の美しさは景観の大切な要素となるため、特徴的なものについて、その色を記載しています。

イ)「特記事項」

それぞれの樹種の特記事項を記載しています。

別表2 有用郷土樹種一覧表

No.	種名	科名	(1)姿		(2)生育地	(3)生育条件			(4)根系分布	(5)植樹適期	(6)利用					(8)特徴	
			常落	樹高		気候	利用光	水分要求			耐アルカリ性	林地	開発裸地	街なか緑地			花実
					公園				街路樹	庭木				生垣			
1	アオキ	ミズキ科	常	低木	温	弱	中	大	浅根	6・10月	○	×	○	×	赤	鹿の嗜好性植物	
2	アオハダ	モチノキ科	落	亜高木	温	強弱	中	中	浅根	3・11月	▲	×	○	×	赤	尾根・浅土	
3	アカガシ	ブナ科	常	高木	温	強弱	小	中	中間	6月	○	×	○	×		高い山に多い・ブナと混生	
4	アカシデ	カバノキ科	落	高木	温	強	小	中	浅根	2・12月	○	×	○	×		斜面上部	
5	アカマツ	マツ科	常	高木	温	強	小	中	深根	3・11月	○	○	○	×		合成～浄菌	
6	アカメガシワ	トウダイグサ科	落	亜高木	温	強	小	大	浅根	3・11月	○	○	○	×		荒れ地・ロープ根・根萌芽	
7	アキグミ	グミ科	落	低木	暖	強	小	大	浅根	3・11月	○	○	○	×	赤	放線菌と共生	
8	アキニレ	ニレ科	落	亜高木	暖	強	中	大	浅根	11月	×	○	○	×		崩積土、運積土に適応	
9	アコウ	クワ科	常	亜高木	海	強	小	大	浅根	6・9月	×	○	○	○		移入種（南西諸島）	
10	アセビ	ツツジ科	常	低木	温	強弱	小	中	浅根	4・6月	○	×	○	○		有毒植物(牛洗い)	
11	アベマキ	ブナ科	落	高木	暖	強	小	中	深根	3・11月	▲	×	○	×	茶	多雨地は好まない	
12	アラカシ	ブナ科	常	亜高木	暖	強弱	中	中	中間	6月	○	×	○	○		カシ類でも最も強健	
13	イイギリ	イイギリ科	落	亜高木	温	強	中	中	浅根	3・11月	○	×	○	×	赤	整った樹形・下駄	
14	イスノキ	マンサク科	常	高木	温	強弱	中	大	中間	6・10月	○	○	○	×	紅	春花が美しい	
15	イタヤカエデ	カエデ科	落	高木	冷	中	中	中	浅根	3・11月	○	×	○	×	赤	メーブルシロップ	
16	イチイガシ	ブナ科	常	高木	暖	弱	中	中	深根	6月	○	×	○	×		照葉樹林代表種	
17	イヌシデ	カバノキ科	落	高木	温	強弱	中	中	浅根	3・11月	○	×	○	×		モミジに似た樹皮	
18	イヌツゲ	モチノキ科	常	低木	暖	強弱	中	大	浅根	6・10月	○	○	○	○	淡黄	剪定に強い	
19	イヌブナ	ブナ科	落	高木	冷	弱	中	中	浅根	3・11月	○	×	○	×			
20	イヌマキ	マキ科	常	高木	暖	強弱	中	大	深根	6・10月	○	×	○	○		斜面に強い	
21	イロハモミジ	カエデ科	落	高木	温	中	中	中	浅根	3・11月	○	×	○	×	紅	本来は石目で	
22	ウツギ	ユキノシタ科	落	低木	暖	強	小	中	深根	3月	○	×	○	○	白	強健な先駆種	
23	ウバメガシ	ブナ科	常	亜高木	暖	強	小	大	深根	6月	○	○	○	○		耐乾性あり	
24	ウメモドキ	モチノキ科	落	低木	温	強	大	中	浅根	3月	▲	×	○	×	赤	小鳥が好きな果実	

別表2 有用郷土樹種一覧表

No.	種名	科名	(1)姿		(2)生育地 気候	(3)生育条件			(4)根 系分布	(5)植 樹適期	(6)利用					(8)特徴	
			常落	樹高		利用光	水分 要求	耐アルカリ 性			林地	開発 裸地	公園	街なか緑地		花 実	特記事項
					街路樹				庭木	生垣							
25	ウラジロガシ	ブナ科	常	高木	温	弱	中	中	中間	6月	○	×	○	×			
26	ウラジロノキ	バラ科	落	亜高木	温	中	中	—	—	3・11月	○	×	○	×	赤		
27	ウリカエデ	カエデ科	落	亜高木	温	中	中	中	浅根	3・11月	○	×	○	×		マサ土に適する	
28	ウリハダカエデ	カエデ科	落	亜高木	温	中	中	中	浅根	3・11月	○	○	○	×		切土でもよく伸びる	
29	ウワミズザクラ	バラ科	落	高木	温	中	中	中	浅根	3・11月	▲	×	○	×	白	窒素要求大	
30	エゴノキ	エゴノキ科	落	亜高木	温	中	中	大	浅根	3・11月	○	×	○	○	白	庭木に使いやすい	
31	エドヒガン	バラ科	落	高木	温	強	中	中	中間	3・11月	▲	×	○	×	白	長寿の樹種・高野山に自生	
32	エノキ	ニレ科	落	高木	暖	強	中	大	浅根	3月	×	○	○	×		森林に少・ロープルート	
33	オオバアサガラ	エゴノキ科	落	亜高木	冷	中	大	中	浅根	3・11月	▲	×	○	×	白		
34	オオモミジ	カエデ科	落	亜高木	冷	弱	中	中	浅根	3・11月	▲	×	○	×		組み合わせで用いる	
35	オガタマノキ	モクレン科	落	高木	暖	強	中	中	中間	6月	▲	×	○	×	淡黄	神社に植栽・野生稀	
36	オニグルミ	クルミ科	落	高木	温	強	中	中	中間	3・11月	○	×	○	×	緑	樹形は粗い・アレロバシーあり	
37	カキノキ	カキノキ科	落	亜高木	暖	強	中	大	中間	3・11月	○	×	○	×	橙	ヤマガキとの区別困難	
38	カクレミノ	ウコギ科	常	亜高木	海	弱	中	大	深根	6月	○	×	○	×		強光ではいじける	
39	カゴノキ	クスノキ科	常	高木	暖	弱	中	中	—	6月	○	×	○	×		樹皮の様子が面白い	
40	カツラ	カツラ科	落	高木	温	強弱	大	中	深根	2・11月	▲	×	○	×		健康株は樹幹から萌芽	
41	カナクギノキ	クスノキ科	落	高木	温	中	中	中	中間	3月	○	×	○	×	淡黄	シカ食害に強い	
42	カナメモチ	バラ科	常	亜高木	暖	中	中	中	浅根	3・11月	○	×	○	×	赤		
43	ガマズミ	スイカズラ科	落	低木	暖	強	中	中	中間	3・11月	▲	×	○	×	白・赤	赤い実が美しい	
44	カマツカ	バラ科	落	低木	温	中	中	—	—	3・11月	○	×	○	×	白・赤	赤い実が美しい	
45	カヤ	イチイ科	常	高木	温	強弱	中	中	深根	2月	○	×	○	×		ときおり高木に・暮盤	
46	カワラハンノキ	カバノキ科	落	亜高木	温	強	大	中	浅根	3月	○	×	○	×			
47	キハダ	ミカン科	落	高木	冷	強弱	中	中	深根	3月	▲	×	○	×		葉用の高木・肥沃地好む	
48	キリ	ノウゼンカズラ科	落	高木	温	強	中	中	中間	3・11月	○	○	○	×	紫		

別表2 有用郷土樹種一覧表

No.	種名	科名	(1)姿		(2)生育地	(3)生育条件		(4)根系分布	(5)植樹適期	(6)利用					(8)特徴		
			常落	樹高		利用光	水分要求			耐アルカリ性	林地	開発裸地	街なか緑地			花実	特記事項
					公園			街路樹	庭木				生垣				
49	クサギ	クマズミ科	落	亜高木	温	強	中	中	浅根	3・11月	○	○	×	×	×	白・紫	
50	クスノキ	クスノギ科	常	高木	暖	中	中	大	中間	4月	×	○	○	×	×		古い時代の移入種 植栽時、葉を2/3以上落とすこと
51	クチナシ	アカネ科	常	低木	暖	強弱	中	大	浅根	6月	○	○	○	○	○	白	黄色の染料になる
52	クヌギ	ブナ科	落	高木	暖	強	中	中	深根	3・11月	○	×	○	×	×		多雨地は好まない
53	クマシデ	カバノギ科	落	高木	温	中	大	中	深根	3・11月	○	○	×	×	×		谷あいを好むシデ
54	クマノミズキ	ミズギ科	落	高木	暖	強	中	中	浅根	3・11月	○	○	×	×	×	白	暖地に耐える
55	クリ	ブナ科	落	高木	温	強	中	中	深根	3・11月	○	○	×	×	×	茶	土木用材・食用
56	クロガネモチ	モチノギ科	常	高木	暖	中	中	大	浅根	6・10月	○	○	○	○	×	赤	粘土に強い
57	クロバイ	ハイノギ科	常	亜高木	海	強	小	－	－	6・7月	○	○	○	×	×	白	5月に花が美しい
58	クロマツ	マツ科	常	高木	海	強	小	大	深根	3月	○	○	○	○	×		台成～浄菌
59	クロモジ	クスノギ科	落	低木	温	中	中	中	中間	3月	○	○	×	×	×		強光では育成困難
60	ケヤキ	ニレ科	落	高木	温	中	中	中	浅根	3月	○	○	○	×	×		本来は崖地が適地
61	ケンボナシ	クロウメモドキ科	落	高木	温	中	中	－	－	3・11月	▲	×	○	×	×		食用
62	コアジサイ	ユキノシタ科	落	低木	冷	中	大	中	深根	3月	▲	×	○	×	○	紫	湿地好む
63	コウヤマキ	コウヤマギ科	常	高木	温	中	中	大	浅根	3・11月	○	○	×	×	×		世界三大庭園樹
64	コウヤミズキ	マンサク科	落	低木	冷	中	中	中	浅根	3月	▲	×	○	×	×	薄黄	春花が美しい
65	コシアブラ	ウコギ科	落	高木	温	中	中	中	深根	3・10月	○	○	×	×	×		中辺路以北・尾根の土溜まり
66	コックバネウツギ	スイカズラ科	落	低木	冷	中	中	中	中間	3・11月	▲	×	○	×	○	白	
67	コナラ	ブナ科	落	高木	暖	強	中	中	深根	3・11月	○	○	×	×	×		紀北里山代表種
68	コハウチワカエデ	カエデ科	落	高木	冷	中	中	中	浅根	3・11月	▲	×	○	×	×		暑さに弱い森の骨格を作る
69	コバノガマズミ	スイカズラ科	落	低木	暖	強	小	中	中間	3・11月	▲	×	○	×	○	白・赤	乾燥に強いガマズミ
70	コバンモチ	ホルトノギ科	常	高木	暖	中	中	－	－	6・10月	▲	×	○	×	×		艶のある葉が美しい
71	コマユミ	ニシギキ科	落	低木	温	中	中	中	浅根	3・11月	▲	×	○	×	○	赤	紅葉美しい
72	ゴヨウツツジ	ツツジ科	落	亜高木	冷	強弱	小	中	浅根	3・11月	▲	×	○	×	×	白	護摩壇山に純林

別表2 有用郷土樹種一覧表

No.	種名	科名	(1)姿		(2)生育地	(3)生育条件			(4)根系分布	(5)植樹適期	(6)利用						(8)特徴	
			常落	樹高		気候	利用光	水分要求			耐アルカリ性	林地	開発裸地	街なか緑地			花実	特記事項
					公園				街路樹	庭木				生垣				
73	ゴヨウマツ	マツ科	常	高木	冷	強	小	中	深根	3月	○	×	×	×				
74	ゴンズイ	ミツバウツギ科	落	亜高木	暖	強	中	中	—	3・11月	▲	×	○	×	赤			
75	ザイフリボク	バラ科	落	亜高木	温	中	中	中	—	3・11月	▲	×	○	×	白	美しい花木		
76	サカキ	ツバキ科	常	亜高木	暖	弱	中	中	浅根	5・6月	○	×	○	×	○	神前にお供え		
77	サツキ	ツツジ科	常	低木	温	強	大	中	浅根	3・11月	○	×	○	×	○	溪流の岩場に自生		
78	サワグルミ	クルミ科	落	高木	冷	強中	大	中	中間	3・11月	▲	×	○	×	×			
79	サワシバ	カバノキ科	落	高木	冷	中	大	中	浅根	2・12月	▲	×	○	×	×			
80	サンシヨウ	ミカン科	落	低木	温	中	中	中	浅根	3・11月	○	×	○	×	×	和歌山県は日本一の産地		
81	シオジ	モクセイ科	落	高木	冷	中	大	中	深根	3・11月	▲	×	○	×	×			
82	シキミ	シキミ科	常	亜高木	暖	中	中	中	中間	6・10月	○	×	○	×	×	仏花		
83	シナノガキ	カキノキ科	落	亜高木	暖	強	中	大	中間	3・11月	▲	×	○	×	○	橙		
84	シャリンバイ	バラ科	常	低木	海	強	小	大	—	5～9月	○	×	○	○	○	白		
85	シラカシ	ブナ科	常	高木	暖	強弱	中	中	深根	6月	○	×	○	×	×	人が増やしたカシ高木		
86	シリブカガシ	ブナ科	常	高木	暖	強	中	中	深根	6月	○	×	○	×	×	生育地は局所的		
87	シロダモ	クスノキ科	常	亜高木	暖	強弱	中	大	中間	3月	○	×	○	○	×	耐陰性がある		
88	シロバイ	ハイノキ科	常	亜高木	暖	弱	中	—	—	6・7月	○	×	○	×	×	5月に花が美しい		
89	シロモジ	クスノキ科	落	低木	冷	中	中	中	中間	3月	○	×	○	×	×	樹姿・葉形が好まれる		
90	スギ	スギ科	常	高木	温	強弱	大	中	深根	3・11月	○	×	○	×	×	建築材		
91	スダジイ	ブナ科	常	高木	海	強	中	大	深根	6月	○	×	○	×	×	ツブラジイより適応範囲広い		
92	センダン	センダン科	落	高木	暖	強	中	大	中間	3・11月	○	○	○	×	×	紫の花がきれい		
93	センリヨウ	センリヨウ科	常	低木	暖	弱	中	—	—	3・6・9月	○	×	○	×	×	庭の片隅に		
94	ソヨゴ	モチノキ科	常	亜高木	温	強	中	中	浅根	6月	○	×	○	×	×	粘土に強い		
95	タイミンタチバナ	ヤブコウジ科	常	亜高木	海	弱	大	中	—	6月	○	×	○	×	×			
96	タカノツメ	ウコギ科	落	高木	温	中	中	中	深根	3・11月	○	×	○	×	×	根貧弱・強光に弱い		

別表2 有用郷土樹種一覧表

No.	種名	科名	(1)姿		(2)生育地	(3)生育条件			(4)根系分布	(5)植樹適期	(6)利用						(8)特徴	
			常落	樹高		気候	利用光	水分要求			耐アルカリ性	林地	開発裸地	街なか緑地			花実	特記事項
					公園				街路樹	庭木				生垣				
97	タブノキ	クスノキ科	常	高木	暖	中	中	大	中間	6～7月	○	○	×	×	×	線香の材料		
98	タムシバ	モクレン科	落	亜高木	冷	強	中	中	中間	3月	▲	×	×	○	×	白い花が美しい		
99	タラヨウ	モチノキ科	常	亜高木	暖	弱	中	大	深根	6月	▲	×	×	○	○	赤		
100	ツガ	マツ科	常	高木	冷	中	中	低	浅根	2月	○	×	×	○	×	岩目に強い		
101	ツクバネウツギ	スイカズラ科	落	低木	温	中	中	中	中間	3・11月	○	×	×	○	○	白		
102	ツクバネガシ	ブナ科	常	高木	温	強弱	中	中	中間	6月	○	×	×	○	×			
103	ツブララジイ	ブナ科	常	高木	暖	強弱	中	大	深根	6月	○	×	×	×	×	粘土質の残積土でも育つ		
104	ドウダンツツジ	ツツジ科	落	低木	冷	強中	小	中	浅根	3・11月	▲	×	×	○	×	白		
105	トガサワラ	マツ科	常	高木	冷	強弱	小	低	浅根	2月	○	×	×	○	×	植栽地域要限定		
106	トチノキ	トチノキ科	落	高木	温	中	中	中	深根	3・11月	○	×	○	○	×	白	大高木の代表・木材・蜂蜜	
107	トベラ	トベラ科	常	低木	海	強	小	大	浅根	10月	○	×	○	○	○	白	海岸沿い	
108	ナギ	マキ科	常	亜高木	暖	弱	中	大	深根	6月	×	×	○	○	×	移入種（自生地不明）		
109	ナツツバキ	ツバキ科	落	高木	冷	中	中	大	浅根	3・6月	▲	×	○	○	×	白	庭木として整った樹姿	
110	ナナカマド	バラ科	落	高木	冷	強	中	中	浅根	3月	▲	×	×	○	×	白・赤	浄菌であれば暖地でも	
111	ナナミノキ	モチノキ科	常	高木	暖	弱	中	中	浅根	6・10月	▲	×	×	○	×	赤	林縁の常緑高木	
112	ナワシログミ	グミ科	常	低木	暖	強	小	大	浅根	3・6月	○	○	×	×	×	赤	放線菌と共生	
113	ナンキンナナカマド	バラ科	落	低木	温	強	中	中	浅根	3月	▲	×	×	○	×	赤		
114	ニワトコ	スイカズラ科	落	低木	温	中	大	中	深根	3・11月	○	×	×	○	×		新芽は食べることができる	
115	ヌルデ	ウルシ科	落	亜高木	温	強	小	大	浅根	3・11月	○	×	×	×	×		かぶれ毒性小	
116	ネジキ	ツツジ科	落	亜高木	温	弱	中	中	－	3・11月	○	×	×	○	×	白	浄菌の残る里山で育つ	
117	ネズミサシ	ヒノキ科	常	亜高木	暖	強	小	大	浅根	3月	○	○	×	×	×			
118	ネズミモチ	モクセイ科	常	亜高木	暖	強弱	小	大	浅根	6・10月	○	×	×	○	×		鳥によって増えすぎた	
119	ネムノキ	マメ科	落	亜高木	暖	強	中	大	中間	3・11月	○	○	×	×	×	桃	根の切断はよくない・根粒菌	
120	ノグルミ	クルミ科	落	高木	暖	強	小	大	浅根	3・11月	○	○	×	×	×			

別表2 有用郷土樹種一覽表

No.	種名	科名	(1)姿		(2)生育地	(3)生育条件		(4)根系分布	(5)植樹適期	(6)利用					(8)特徴	
			常落	樹高		気候	利用光			水分要求	耐アルカリ性	林地	開発裸地	街なか緑地		
					公園			街路樹	庭木					生垣		
121	ノリウツギ	ユキノシタ科	落	低木	温	中	大	大	深根	○	×	○	○	○	白	地下水好む
122	バイカウツギ	ユキノシタ科	落	低木	暖	中	大	中	深根	▲	×	○	×	○	白	花が美しい
123	ハギ類	マメ科	落	低木	温	強	小	中	中間	×	○	○	×	○	桃	根に根粒菌
124	ハゼノキ	ウルシ科	落	高木	暖	強	中	中	中間	▲	○	×	×	×		かぶれ毒性小・移入種(南西諸島)
125	ハマヒサカキ	ツバキ科	常	低木	暖	強	小	大	浅根	○	×	○	○	○		乾いた海辺岩壁に
126	ハマボウ	アオイ科	落	低木	海	強	大	大	浅根	×	×	○	×	○	黄	夏、美しい花・庭木に耐える
127	ハリギリ	ウコギ科	落	高木	冷	強	中	中	深根	○	×	○	×	×		シナ合板
128	ハンノキ	カバノキ科	落	高木	暖	強	大	中	浅根	○	通源地緑化	○	×	×		水田放棄地にも育つ
129	ヒイラギ	モクセイ科	常	低木	暖	強弱	中	大	浅根	○	×	○	×	○	白	老木の葉は丸くなる
130	ヒサカキ	ツバキ科	常	低木	温	中	小	大	浅根	○	×	○	×	○		里山でよく見かける
131	ヒノキ	ヒノキ科	常	高木	温	強弱	小	中	浅根	○	×	○	×	×		代表的植林樹種
132	ヒメシャラ	ツバキ科	落	高木	冷	強弱	中	中	浅根	○	○	○	×	×	白	先駆種
133	ヒメユズリハ	ユズリハ科	常	高木	海	弱	小	大	浅根	○	×	○	×	×		
134	ビヤクシン	ヒノキ科	常	亜高木	海	強	小	大	浅根	×	×	○	○	×		乾燥に強い
135	フサザクラ	フサザクラ科	落	亜高木	温	強	大	中	浅根	▲	×	○	×	×		溪流沿いを好む
136	ブナ	ブナ科	落	高木	冷	強弱	中	中	浅根	▲	×	○	×	×		植栽はブナ帯だけで
137	ホウノキ	モクレン科	落	高木	温	弱	大	中	中間	○	×	○	×	×	白	暖地では樹勢が衰える
138	ホルトノキ	ホルトノキ科	常	亜高木	海	強弱	中	大	深根	○	×	○	○	×	白	狭い亀裂には入らず石を抱く
139	ホンシヤクナゲ	ツツジ科	常	低木	温	弱	中	大	浅根	○	×	○	×	×	桃	
140	マサキ	ニシキギ科	常	低木	海	強	小	大	浅根	○	×	○	×	○	赤	
141	マユミ	ニシキギ科	落	亜高木	温	中	中	中	—	○	×	○	×	×	赤	赤い実美しい
142	マルバアオダモ	モクセイ科	落	亜高木	暖	強弱	中	中	浅根	○	×	○	×	×	白	海沿いの里山に多い
143	マンサク	マンサク科	落	低木	冷	中	中	中	浅根	▲	×	○	×	×	黄	春花が美しい
144	マンリヨウ	ヤブコウジ科	常	低木	暖	弱	中	中	浅根	○	×	○	×	×	赤	樹高50cm

別表2 有用郷土樹種一覧表

No.	種名	科名	(1)姿		(2)生育地	(3)生育条件			(4)根系分布	(5)植樹適期	(6)利用					(8)特徴	
			常落	樹高		気候	利用光	水分要求			耐アルカリ性	林地	開発裸地	街なか緑地		花実	特記事項
					公園				街路樹	庭木				生垣			
145	ミズキ	ミズキ科	落	高木	冷	中	大	中	浅根	3・11月	○	○	×	×	白	樹形に特徴	
146	ミズナラ	ブナ科	落	高木	冷	中	中	中	深根	3月	○	○	×	×		近年日本海側で害虫増加	
147	ミズメ	カバノキ科	落	高木	冷	中	中	中	浅根	3月	▲	○	×	×		サロメチール臭	
148	ミツバツツジ類	ツツジ科	落	低木	温	中	中	中	浅根	3・11月	▲	○	×	○	桃含む	トナリハ・ツツジ・コハノミツバツツジ	
149	ミミズバイ	ハイノキ科	常	亜高木	海	小	強	中	—	6・7月	○	○	×	×			
150	ミヤマガマズミ	スイカズラ科	落	低木	暖	中	小	—	—	3・11月	▲	○	×	×	白・赤	赤い実が美しい	
151	ムクノキ	ニレ科	落	高木	暖	強	中	中	浅根	3月	×	○	○	×		森林に少・ローブルート	
152	ムクロジ	ムクロジ科	落	高木	暖	強	大	大	深根	3・11月	×	○	×	×			
153	ムラサキシキブ	クマツズラ科	落	低木	暖	中	中	中	浅根	3・11月	○	○	×	○	紫	コムラサキと区別する	
154	モチツツジ	ツツジ科	落	低木	暖	強中	中	中	浅根	5・6月	▲	○	×	○	桃	紀ノ川下流域の里山に多い	
155	モチノキ	モチノキ科	常	亜高木	海	強弱	中	大	浅根	6月	○	○	○	×	赤		
156	モッコク	ツバキ科	常	亜高木	海	中	中	大	浅根	6・7月	○	○	○	×		乾燥に強く、樹姿よし	
157	モミ	マツ科	常	高木	温	中	中	低	深根	3月	○	○	×	×		増やしたい針葉樹	
158	ヤツデ	ウコギ科	常	低木	暖	弱	中	大	浅根	6月	×	○	×	○		鳥により自然に侵入	
159	ヤブコウジ	ヤブコウジ科	常	低木	温	弱	中	中	浅根	6月	○	○	×	○	赤	樹高10cm	
160	ヤブツバキ	ツバキ科	常	亜高木	暖	強弱	中	大	浅根	6・7月	○	○	○	×	赤	冬に花が美しい	
161	ヤブニッケイ	クスノキ科	常	亜高木	暖	中	中	大	中間	4・5月	○	○	○	×			
162	ヤブムラサキ	クマツズラ科	落	低木	暖	弱	中	中	浅根	3・11月	○	○	×	○	紫		
163	ヤマアジサイ	ユキノシタ科	落	低木	冷	強	大	中	深根	3月	▲	○	×	×	紫	美しいアジサイ	
164	ヤマウルシ	ウルシ科	落	亜高木	温	強	小	中	中間	3・11月	▲	×	×	×		かぶれ毒性中	
165	ヤマグルマ	ヤマグルマ科	常	高木	温	強弱	小	中	浅根	6・9月	▲	○	×	×			
166	ヤマザクラ	バラ科	落	高木	暖	強	中	中	浅根	3・11月	○	○	×	×	白	花が美しい	
167	ヤマツツジ	ツツジ科	落	低木	温	強	中	大	浅根	3・10月	▲	○	×	○	紅	地域ごとに違いがある	
168	ヤマナラシ	ヤナギ科	落	高木	温	強	小	中	浅根	3月	▲	○	×	×		樹形・樹皮美しい	

別表2 有用郷土樹種一覧表

No.	種名	科名	(1)姿		(2)	(3)生育条件			(4)根	(5)植	(6)利用						(8)特徴	
			常落	樹高	生育地	気候	利用光	水分要求	耐アルカリ性	系分布	樹適期	林地	開発裸地	公園	街なか緑地		花実	特記事項
															街路樹	庭木		
169	ヤマハゼ	ウルシ科	落	亜高木	温	強	小	中	中間	3・11月	▲	○	×	×	×	×	かぶれ毒性中	
170	ヤマブキ	バラ科	落	低木	温	弱	大	中	浅根	11月	○	×	○	×	○	×	黄	5弁が野生種
171	ヤマボウシ	ミズキ科	落	亜高木	冷	中	中	中	浅根	3・11月	▲	×	○	×	○	×	白・赤	谷あいと尾根で育つ
172	ヤマモモ	ヤマモモ科	常	亜高木	暖	強弱	小	大	中間	6・10月	○	×	○	○	×	×	赤	粘土に強い
173	エキヤナギ	バラ科	落	低木	温	強	中	中	浅根	3・11月	×	×	○	×	○	×	白	花が美しい
174	エズリハ	ユズリハ科	常	亜高木	冷	強	中	大	浅根	6月	○	×	○	×	○	×		葉はしめ縄に・シカ食べない
175	リョウブ	リョウブ科	落	亜高木	温	強弱	小	中	浅根	3・11月	○	×	○	×	○	×	白	樹形に特徴
176	リンボク	バラ科	常	亜高木	暖	弱	大	中	中間	3月	○	×	○	×	○	×	白	秋に花
177	ルリミノキ	アカネ科	常	低木	暖	弱	中	—	浅根	7月	▲	×	○	×	○	×	青	紫の美しい
178	レンゲツツジ	ツツジ科	落	低木	温	中	中	中	浅根	3月	×	×	○	×	○	×	桃	護摩壇山の株もシカの食害に